

日本都市社会学会ニュース

NO. 81 (2008. 11. 1)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

立教大学社会学部江上渉研究室内

e-mail：u-socio@grp.rikkyo.ne.jp

FAX：03-3985-2833

(振替口座：00140-4-703976)

URL： <http://www.soc.nii.ac.jp/urbansocio/>

第26回大会の報告

原田 謙 (実践女子大学)

日本都市社会学会第26回大会は、9月13日、14日の両日にわたり、緑豊かな法政大学多摩キャンパス（社会学部棟）にて開催されました。参加者は104名（会員78名、非会員26名）を数え、自由報告部会およびシンポジウムにおいて活発な議論が展開されました。

自由報告は計4部会（19報告）、まさに都市の多様性を反映した多岐にわたる研究成果が発表されました。とくに今年はテーマ部会が開かれず、1日目のすべての時間が自由報告にあてられたため、あらたな研究動向を数多く知ることができました。フロアからのコメントにもありましたが、質的調査であれ量的調査であれ、そして外国人調査であれ高齢者調査であれ、「何のための都市調査か」を明確にし、自分の調査を「より大きなコンテキストに位置づける」必要性が再認識させられました。

2日目の午後には、シンポジウム「郊外ニュータウン開発と地域の記憶：多摩ニュータウンを軸として」が行われました。集合的記憶をめぐる議論は、社会学一般においては戦争の記憶、震災の記憶などが取り上げられてきましたが、日本の都市社会学ではさほど中心的なテーマではなかったでしょう。今年のシンポジウムは、この切り口の斬新さに加え、隣接領域で活躍されている3人の先生方の具体的事例にもとづく報告から、都市社会学会のこれまでの郊外／ニュータウン研究をとらえなおす非常に良い機会になりました。

今年の大会では、「質疑応答を含めて自由報告に十分な時間を割き、会員相互でじっくり議論する」という都市社会学会の良さをあらためて実感することができました。また「大学院生・若手研究者も参加しやすい懇親会」という点も都市社会学会の良さだと思います。懇親会に参加するのは敷居が高いと感じている学生会員の方がいらっしやるかもしれません。ただ私自身の経験でいえば、懇親会で初めてお会いした先輩・後輩諸氏との気軽な会話が、共同研究のきっかけになったこともあります。また来年、あらたな出会いがあることを楽しみにしております。

最後になりましたが、今大会のシンポジウムに最適な舞台となった開催校の皆様およびいつもご尽力いただいている事務局の皆様にご感謝申し上げます。ありがとうございました。

総会の記録

総会は、大会1日目の9月13日（土）、下記の次第に沿って行われました。

1. 開会の辞（谷富夫理事）
2. 会長挨拶（町村敬志会長）
3. 開催校挨拶（田嶋淳子会員）
4. 座長推挙（内藤辰美会員を選出）

5. 諸報告

(1) 2007年度理事会報告

渡戸一郎常任理事より2007年度の理事会に関する報告がありました。

(2) 2007年度企画委員会報告

渡戸一郎常任理事（企画委員会委員長）より2007年度の企画委員会活動についての報告がありました。

(3) 2007年度編集委員会報告

早川洋行常任理事（編集委員会委員長）より2007年度の編集委員会活動についての報告がありました。

(4) 『年報』投稿規定の改正について

引き続き早川洋行常任理事（編集委員会委員長）より『日本都市社会学会年報』の投稿規定ならびに執筆要項を、編集委員会で審議の上、つぎのように改正する件について報告がありました。

【投稿規定】

第1条として下記の条項を追加し、以下、番号を後ろに送る。

1. 投稿は会員に限る。共同執筆の場合は、第一執筆者を含み執筆者の半数以上が会員であること。

【執筆要項】

8. 査読終了後の完成稿は、印刷原稿と電子ファイル（原則としてWordまたはテキストファイル形式）で提出すること。

(5) 新入会員紹介

江上渉常任理事より新入会員14名の紹介があり、全員拍手をもって確認されました。

(6) その他

“「東京」を観る、「東京」を読む。”展（日本大学文理学部主催）の後援に関する報告と紹介がありました。

6. 第2回日本都市社会学会若手奨励賞選考委員会報告および授与式

広田康生選考委員長より選考過程及び結果の報告があり、二階堂裕子著『民族関係と地域福祉の都市社会学』世界思想社（2007年）、南川文里著『日系アメリカ人の歴史社会学—エスニシティ・人種・ナショナリズム』彩流社（2007年）に同賞が授与されました。なお、受賞者には会長より賞状が授与されました。

7. 議事

(1) 規約ならびに役員選出規定の改正について

町村敬志会長から「日本都市社会学会規約」について、「監査」の役職名を「監事」とすることの報告があり、承認されました。また、「役員選出規定」の改正について、理事会審議の結果が報告されました。

(2) 2007年度決算報告及び監査報告

江上渉理事から2007年度決算についての報告、次いでから後藤範章監事から監査報告があり承認されました。

(3) 2008年度予算承認の件

引き続き江上渉理事から2008年度予算についての説明があり承認されました。

(4) 次回大会の件

町村会長より2009年度の大会（第27回大会）を、2009年9月12日（土）、13日（日）の両日（予定）に、県立広島大学で開催する旨の報告があり承認されました。また、大会開催校を代表して県立広島大学山本努会員より挨拶がありました。

8. 閉会の辞（谷富夫理事）

2007 年度決算報告および 2008 年度予算

2007 年度 決算報告 (2007年4月1日～2008年3月31日)

収 入				支 出			
項目	予算	決算	備考	項目	予算	決算	備考
入会金	30,000	16,000	8名分	消耗品費	70,000	12,144	文具、封筒等
学会費	1,150,000	1,133,000		通信費	120,000	159,530	
広告収入	50,000	60,000	07年度分	ニュース印刷費	120,000	137,550	350部×2回、400部×1回
雑収入	20,000	343	利息・複写権収入等	年報印刷費	600,000	578,550	第25号450部
年報販売	150,000	137,500		大会開催費	150,000	150,000	第26回大会
				役員・委員会費	250,000	153,342	役員・委員旅費補助含む
				事務局費	400,000	248,950	事務局手当、アルバイト代含む
				学会賞費	15,000	13,314	
				企画委員会費	80,000	0	
				名簿印刷費	80,000	80,000	
				編集委員会事務局費	80,000	25,425	
繰越金	1,170,653	1,170,653		予備費	605,653	0	
計	2,570,653	2,517,496			2,570,653	1,558,805	

次年度繰越金 958,691

2008年度 予算案 (2008年4月1日～2009年3月31日)

収 入			支 出		
項目	予算	備考	項目	予算	備考
入会金	30,000	15人分	消耗品費	50,000	文具、封筒等
学会費	1,150,000		通信費	160,000	
広告収入	50,000	08年度分	ニュース印刷費	120,000	350部×2回、400部×1回
雑収入	20,000	利息・複写権収入等	年報印刷費	600,000	第26号450部
年報販売	150,000		大会開催費	150,000	第27回大会
			役員・委員会費	250,000	役員・委員の交通費を含む
			事務局費	400,000	事務局員手当、アルバイト代、事務局員交通費及び年報販売業務費を含む
			学会賞費	15,000	
			企画委員会費	80,000	
			編集委員会事務局費	80,000	編集関係通信費、事務局員手当を含む
繰越金	958,691		予備費	453,691	
計	2,358,691			2,358,691	

第 2 回日本都市社会学会若手奨励賞 受賞作品の紹介と選考理由

日本都市社会学会賞選考委員会 (第5回日本都市社会学会賞《磯村記念賞》、第2回若手奨励賞選考委員会：任期2007年1月から2008年年次大会まで) では、博士後期課程入学後10年以内の日本都市社会学会若手会員が2006年1月1日から2007年12月31日までに発表した論文と著書のなかから、下記の2本を第2回日本都市社会学会若手奨励賞受賞作品として選出した。

二階堂裕子著『民族関係と地域福祉の都市社会学』世界思想社 (2007年)

南川文里著『日系アメリカ人の歴史社会学—エスニシティ・人種・ナショナリズム』彩流社 (2007年)

受賞理由は以下のとおりである。

二階堂裕子著『民族関係と地域福祉の都市社会学』世界思想社 (2007年) は、大阪生野を舞台に、在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係が、コミュニティの再構築にどのようにかわるかを地域福祉の現場で問うもので、丹念な調査研究の積み重ねが印象的な著作である。特に職業を迂回路とした民族結合 (バイパス結合) をとおし

ながら、他者の民族性を否定することなく相互に結合を志向する民族関係の成立を、世代間生活史法を採用しつつ4家族に対する緻密な聞き取り調査によって明らかにしている点が評価された。

南川文里著『日系アメリカ人の歴史社会学—エスニシティ・人種・ナショナリズム』彩流社（2007年）は、アメリカ社会における人種、エスニシティ、ナショナリズムを考察した歴史社会的な著作である。特に、ロスアンジェルスの日系人コミュニティがアメリカ社会と衝突、包摂、共存する過程に関する丹念な資料読み込みと分析は、アメリカ社会の人種エスニック編成の特徴を生き生きと伝えており、現代アメリカ社会の同化、統合、多様性の本質を考えさせてくれた点が評価された。

第5回日本都市社会学会賞（磯村英一賞）、第2回若手奨励賞を選考した学会賞選考委員会委員は次のとおりである。青木秀男会員、有末賢会員、稲月正会員、浦野正樹会員、園部雅久会員、田中重好会員、谷富夫会員、中西典子会員、広田康生会員、町村敬志会員*、山下祐介会員、渡戸一郎会員（五十音順）。

*町村敬志会員は、2007年9月の年次大会で日本都市社会学会会長に選出されたため、第2回若手奨励賞の選考委員は辞退。
(学会賞選考委員長 広田康生)

理事会からのお知らせとお願い

「日本都市社会学会役員選出規程」の改定案について

本学会では、現在、理事の選出を、日本都市社会学会役員選出規程の第5項に基づき、大会時に実施しています。その方法は、「理事のうち4名は被選挙権を有する全会員中より選出し、他の4名は指定の4地区から各1名あて選出する」というもので、地区指定は「1. 北海道・東北地区 2. 関東地区 3. 中部・関西地区 4. 中国・四国・九州地区」となっています。

このうち、「地方区」の理事選出に当たっては、同上規程の「役員選出方法一覧」にしたがい、「各地区の有権者が同地区の者を1名のみ選んで記入」という方法が採用されてきました。これは「全国区」だけでは選出理事の地域的バランスを十分に保てないことを配慮した結果であり、その結果、理事選出地域の集中という事態が緩和されてきました。

ただし本学会の場合、大会出席会員の投票による選出という方法を採用しているため、投票時の出席会員数とくに少ない地区においては、きわめて少ない有権者の投票によって理事が選出されるという状態が続いています（2007年9月大会時の選挙では、北海道・東北地区と中部・関西地区の投票有権者数は各3名）。また、少数の有権者間で投票結果がばらついた場合、繰り返し投票が必要となり投票に時間を要するという事態もときに生じました（前回の関西地区の場合、4回目の投票で選出）。

こうした点を受け、今期理事会では理事選出方法の改善について検討を重ね、その過程で、現行案のほか、次のような変更案を用意しました。

第1案 地区割りは固定した上で「全有権者が各地区の者を1名選んで記入」とする。

第2案 地区割りを見直し、東日本（北海道・東北・関東）と西日本（中部・関西・中国・四国・九州）の2地区(各定員2名)とした上で、各地区の有権者が同地区の者2名を投票する。

このほか、投票方法を郵送へ変更する方法も検討しましたが、これは多くの手間と費用を要するため、最終的に除外することにしました。その上で、本理事会としては、上記の第1案が変更案として最適ではないかという結論に達しました。

ただし本理事会としては、今回の変更は、会員、とりわけ影響が予想される各地区の会員の権利に関わる内容を含むので、慎重な進め方が必要であると考えています。このため、本年9月の総会の際に、理事会提案を示してご意見を伺いました。引き続き、会員各位のご意見を賜りたいと思います。つきましては、2009年2月末までをめどに、この件について学会事務局宛、電子メールにてご意見をお寄せいただければ幸いです。

なお、役員選出に関わる規程は総会での決定が必要であり、もし変更の場合でも、事前の告知期間が必要となります。したがって、2009年実施予定の役員選出は現行規程に基づいて実施されます。今期理事会としては、寄せられたご意見を参考にしながら最終的な提案内容を決定した上で、来年度の総会でご承認をいただくか、次期理事会に引き継ぐかを定める予定です。
(会長 町村敬志)

会員の皆様へのお知らせ

1. 会費納入のお願い

まだ学会費を納入されていない会員の方には、請求書と振込用紙を同封いたしましたので、お早めに納入ください。なお、前年度（2007年度）までの学会費が未納の会員の方には『日本都市社会学会年報』26号をお送りできませんのでご了承ください。なお、『年報』に関しましては、事務局が学会費納入を確認し次第お送りいたします。また、継続して5年以上会費を滞納している会員の方は、2008年度中に滞納分の会費を納入していただかないと会員の資格を失うこととなりますので、ご注意ください。

2. 第27回大会開催について

第27回大会は、2009年9月12日（土）、13日（日）（予定）に、県立広島大学にて開催されます。

3. 理事会報告

(1) 2007-2008年度第5回理事会報告

9月12日（金）15:00より年次大会前の第5回理事会が法政大学（多摩キャンパス）で開催されました。本理事会では、①学会賞選考委員会から第2回若手奨励賞の選考過程と受賞作品について広田康生委員長から報告がありました。②企画委員会、編集委員会からそれぞれの活動報告がありました。審議事項として①新入会員、退会者について、②第26回大会の運営、③規約および役員選出規定の改正、④次期学会賞選考委員会の構成、⑤『年報』投稿規定・執筆要項の改正、⑥06年度決算案、07年度予算案などがありました。

(2) 2008-2009年度第1回理事会報告

2008-9年度第1回理事会は、10月5日（日）から立教大学で開催されました。

報告事項として①企画委員会から第27回大会のテーマ部会、シンポジウムの企画案について、②編集委員会から『年報』27号の構成等報告されました。

審議事項として①学会賞選考委員の委嘱、②役員選出規定、③機関別認証評価委員会専門委員の推薦、④次期事務局についてなどが検討されました。
(事務局担当理事 江上渉)

4. 『日本都市社会学会年報』27号（2009年発行）自由投稿論文・研究ノートの募集について

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』27号（2009年発行）に掲載する「自由投稿論文」「研究ノート」および「書評プライ」を募集します。投稿を希望される会員の方は、『年報』26号（2008年発行）に掲載されている編集規定、投稿規定、および執筆要項をご覧の上、審査用原稿（3部）を2008年11月30日（消印有効）までに編集委員会事務局あて、余裕をもって郵送して下さい。なお25号より英文要約を掲載することとなっております。投稿ご希望の方はこの点お含みおき下さい。会員諸氏の奮っての投稿をお待ちしています。

投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。

※なお、「総会の記録」にもありますように、投稿規定・執筆要項の一部が変更されましたのでご注意ください（投稿なさる会員はかならず「総会の記録」をごらん下さい）。
(常任理事・編集委員長 早川洋行)

(提出先)

〒520-0862

滋賀県大津市平津2-5-1

滋賀大学教育学部 早川洋行研究室 気付

日本都市社会学会編集委員会事務局

電話・FAX：077-537-7787（早川研究室直通）

E-mail：hayakawa@sue.shiga-u.ac.jp

「出版・刊行された著書等に関する調査」および

「第6回日本都市社会学会賞 受賞対象候補の推薦」に関するお願い

日本都市社会学会では、学会活動の参考とさせていただくために、会員の皆様が出版・刊行された著書等（論文は除く）に関する調査を隔年で行っております。また併せて、第6回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）の受賞対象候補を会員の皆様に推薦していただきたく存じます（自薦・他薦は問いません）。

つきましては、①2007年1月から2008年12月末日までに刊行された著書等で、**会員のみなさんの単著書・共著書・編著書に当たるもの**、および②同期間に刊行された著書等で、**第6回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）の受賞対象候補としてふさわしいと考えるもの（自薦・他薦を問わない）**を、「文献調査用紙」あるいは「推薦用紙」に記入し、次のいずれかの方法で学会事務局宛にお知らせください。①学会ホームページに掲載されている「調査用紙」または「推薦用紙」（いずれもWord形式）をダウンロードして電子メールに添付する、②同封の用紙を郵送する、③同封の用紙をファックスにて送信する。なお、学会ホームページへのアップロードは11月中旬になる予定です。締めきりはいずれも2009年1月末日です。

（会長 町村敬志）

会 員 異 動

新 入 会 員（2008年9月12日理事会承認）

< 関 東 >

中野佑一 上智大学大学院
森久 聡 法政大学大学院
飯塚義博 法政大学大学院

< 中部・関西 >

八木寛之 大阪市立大学大学院
岡村徹也 名古屋大学大学院

所 属 ・ 住 所 ・ 電 話 番 号 等 連 絡 先 の 変 更

所 属 ・ 住 所 等 の 変 更

< 関 東 >

西野淑美 首都大学東京
山本薫子 首都大学東京

退 会

< 北海道・東北 >

高橋雅也

< 中部・関西 >

石原多賀子

< 関東 >

桑野真紀
朝倉景樹
半沢多津子
南谷恵樹

< 中国・四国・九州 >

木下謙治
藤島法仁

学会事務局より

- ◆ 大会に参加されなかった会員の皆様で、2007年度分までの会費納入済みの皆様には『日本都市社会学会年報』26号を別便でお送りいたします。会費未納の皆様には、「学会ニュース」と請求書・振替用紙を同封いたしました。学会費につきましては、早めの納入に是非ともご協力下さい。
- ◆ 第26回大会は天候にも恵まれ活気に溢れた大会になりました。開催校・法政大学の田嶋淳子会員、中筋直哉会員をはじめ関係者のみなさまに事務局からもあつくお礼申し上げます。
- ◆ 日本都市社会学会もメンバーとなっている「社会学系コンソーシアム」のホームページがたちあがっております。次のURLをごらん下さい。<http://www.socconso.com/index.html>

(事務局)